

# 大正の女性たちと装い

大正時代は女性たちが自分らしい生き方を歩み始めた時代でもありました。明治後期から与謝野晶子らが自立した女性像を示し、高等女学校の設立など教育の環境も整っていきました。1920年代になると、女性の社会進出が進みモダンガールと呼ばれる新しい女性たちが登場するようになりました。

大正から昭和初期の少女雑誌や婦人雑誌には、竹久夢二や高島華宵などによる様々な女性像が描かれ人気を博しました。その装いには当時の女性たちの夢と憧れが映し出されています。欧米の影響を受けた洋装や断髪、メイクアップは時代の先端をいくものでした。一般の女性はほとんどが和装でしたが、洋柄の着物、帯を胸高に締める着こなし、断髪風の髪型「耳隠し」、着物にショールやパラソルを合わせる和洋折衷の小物使いが流行しました。大胆な色や柄の組み合わせなど、今見ても新鮮で素敵なお洒落がたくさんです。

## \*\*\*乙女のモダンぬりえ\*\*\*

鹿児島のイラストレーター 星野トゥインクルさんによる展覧会オリジナルのイラストです！明治後期から大正、昭和初期に流行した様々な装いや、雑誌などに描かれた斬新なコーディネートがモチーフ。当時の女性たちに関連する言葉も添えてあります。好きな色を塗ったり柄を描いたり、あなただけのお洒落を完成させてみましょう！

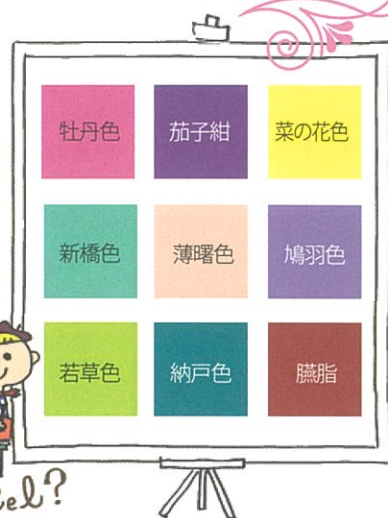
★完成したら twitter や Instagram に「#乙女のモダンぬりえ」で投稿してみてくださいね！！

大正時代の流行色  
化学染料の普及で鮮やかな色  
が人気に♪百貨店が流行の  
発信地で、毎年流行色が発表  
されたよ！

参考文献  
石川桂子編『大正ロマン手帖—  
ノスタルジック&モダンの世界』2009年



高島華宵『少女画報』第16巻第4号 表紙  
昭和2(1927)年(個)



Shitell?



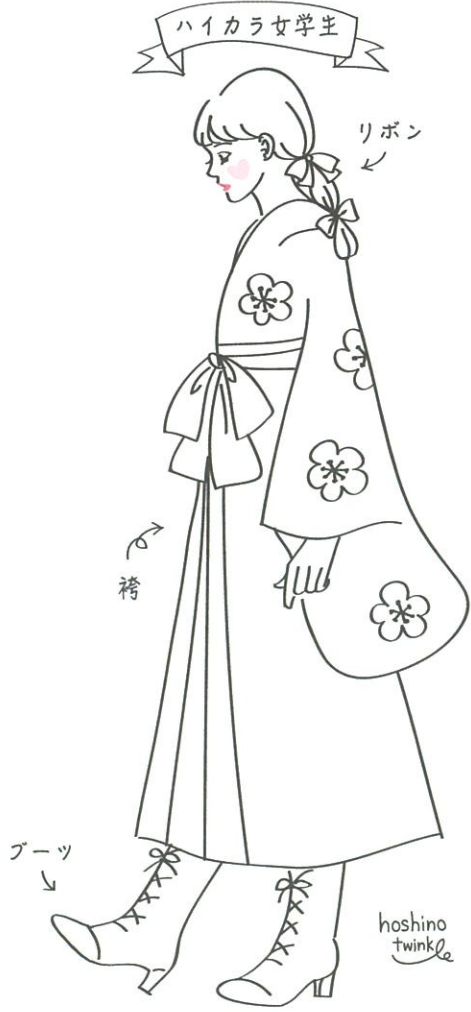
山の動く日きたる...  
すべて眠りし女 今ぞ目覚めて動くなる

与謝野晶子「そぞろごと」『青踏』創刊号 明治44(1911)年



自分たちの魂が要求するままに  
生きようとしているばかり

北澤秀一「モダン・ガールの表現—日本の妹へ送る手紙」  
『女性改造』第2巻第4号 大正12(1923)年



返らぬ少女の日のゆめに咲きし花のかずかずを  
いととき君達へおくる

吉屋信子『花物語』扉はしがき 大正8(1919)年

暮らしを彩った、夢と憧れ。  
藤島武二、杉浦非水、橋口五葉、竹久夢二...

# 乙女のモダンデザイン

～大正イマジユリの世界～  
2020.10.2[金]～11.15[日]

開館時間＝9:30～18:00(入館は17:30まで)  
休館日＝10/5(月)、12(月)、19(月)、26(月)、11/2(月)  
観覧料＝一般1,000円、高大生800円、小中生600円

鹿児島市立美術館

竹久夢二『涼しき談心』『三越』15巻第6号 1925(大正14)年

Shitell?

マナーをまもって  
楽しく鑑賞しよう！

\*\*\*鑑賞のマナー\*\*\*  
展示室のなかでは...

- ・作品にさわらないでね
- ・ゆっくり歩いてね
- ・小さな声で話してね
- ・スマホやゲーム機は使わないでね
- ・メモをするときは鉛筆を使ってね

## 展覧会ガイドシート TAISHO IMAGERIE

大正イマジユリの世界へようこそ！

大正イマジユリとは、今から約100年前の大正時代(1912～1926年)を中心に、明治後期から昭和初期の暮らしの中で親しまれた書籍装幀、雑誌、絵はがき、ポスターなどの印刷物の図像(イマジユリ)を意味します。

この時代は、印刷技術の進化、洋式製本の普及、商業美術の発達を背景に、グラフィック・デザインが豊かに花開きました。また、百貨店や劇場の誕生、音楽や映画といった大衆娯楽の発展などによって、一般の人々が広く文化的な暮らしを楽しめるようになり、デザインは日常生活に浸透していきました。

大正イマジユリは現在の私たちの身近にあふれているデザインやイラストレーションの原点といえます。今見てもモダンでユニーク、お洒落で可愛いイマジユリの魅力をお楽しみください。(※掲載作品の所蔵先は(個)＝個人蔵、(鹿)＝鹿児島市立美術館蔵です。)



## BOOK DESIGN 書籍装幀の魅力

橋口五葉  
『毒うつき』(吉井勇著)  
大正7(1918)年(個)

江戸時代までの日本では、本は和綴りの形式でした。明治時代に西洋から洋式製本が伝わり、日本でも装幀の文化が始まりました。表紙だけでなく、見返しなどにもデザインが施されていて、1冊の書籍全体が芸術作品のように仕上げられています。



藤島武二『三田文選』装幀・見返し  
大正8(1919)年(個)



## POPULAR CULTURE 花開く大衆文化

大正時代には様々な娯楽が人々に親しまれました。なかでも雑誌は女性向けや子ども向けなどたくさんの種類が発行されました。また、西洋から子どもの個性や創造性を重んじる教育観が伝わり、子どもに関するデザインも多く生まれました。



杉浦非水『子宝』(巖谷小波監修) 明治42(1909)年(個)

『子宝』は欧米のアルバムを参考にした子どもの成長記録。出産祝いや贈答品として人気を集めたよ。

# 大正イマジユリの作家たちと鹿児島

大正イマジユリには、様々な画家や図案家たちが携わっています。百貨店の広告を中心に都会的なから親しみやすいデザインを生み出した杉浦非水、繊細で夢見るような女性像「夢二式美人」で大人気となった竹久夢二がその代表です。実は彼らに影響を与えたのが、優れたデザインの仕事を手がけた鹿児島出身の画家たちでした。

## SUGIURA HISUI 杉浦非水

[明治9(1876)年～昭和40(1965)年]  
愛媛県松山市生まれ



上)『初夏』『三越』第22巻第5号 昭和7(1932)年(個)



下)『お夏交代』(菊池蘭芳著) 大正4(1915)年(個)



『非水図案集』第1集 大正4(1915)年(個)

## KURODA SEIKI 黒田清輝

[慶応2(1866)年～大正13(1924)年]  
現・鹿児島市生まれ



『風景』明治25(1892)年(鹿)



『文芸界』第1号 明治35(1902)年(個)

黒田はフランスで印象派に影響を受けた絵画を学び日本の洋画を育てたほか、海外のデザインも紹介したよ!

## HASHIGUCHI GOYO 橋口五葉

[明治14(1881)年～大正10(1921)年]  
鹿児島市生まれ



橋口五葉が三越のポスター公募で第1等を受賞した《此美人》。この時、三越で活躍していた非水も審査に関与しました。



『吾輩ハ猫デアル』上編(夏目漱石著) 明治38(1905)年初版(個)



『虞美人草』(夏目漱石著) 装幀刷見本 明治40(1907)年(鹿)





『木村長門守』(緑園生著) 装幀、見返 明治41(1908)年(個)

五葉は夏目漱石の『吾輩ハ猫デアル』で装幀デビューしたよ!他にも泉鏡花や永井荷風などたくさんの作家の装幀を手がけました。

大正イマジユリのデザインを知るキーワード1  
植物や動物のモチーフ

アール・ヌーヴォー  
大正イマジユリに大きな影響を与えたデザインのひとつが19世紀末～20世紀初頭のヨーロッパで流行したアール・ヌーヴォー様式です。植物や動物をモチーフにした曲線が特徴。藤島武二や和田英作、橋口五葉などがデザインに取り入れています。

生命主義  
自然や生命への関心が高まると同時に、自然のモチーフを通じて人間の内面を表現したり、デザインにも個性を尊重した創作性を求める作家たちが登場しました。

岸田劉生『或る人々』(長与善郎著) 大正9(1920)年初版(個)

## FUJISHIMA TAKEJI 藤島武二

[慶応3(1867)年～昭和18(1943)年]  
現・鹿児島市生まれ



藤島武二『晶子短歌全集 第一』(与謝野晶子著) 装幀・見返 大正8(1919)年初版(個)

アール・ヌーヴォーに影響を受けながら、日本の伝統図案と融合させています。藤島は『みだれ髪』など、与謝野晶子の装幀を手がけたことで知られるよ!



『マンドリンを弾く女 朝日カレンダー』10月号 大正13(1924)年(個)

竹久夢二は藤島武二に憧れていました。夢見るような「夢二式美人」は、藤島のロマンティックな女性像に影響を受けていると考えられているよ!

## 竹久夢二

[明治17(1884)年～昭和9(1934)年]  
現・岡山県瀬戸内市生まれ



『唯我心ぞ知らぬ』(セノオ楽譜27番) 大正5(1916)年初版(個)

楽譜や雑誌など様々なデザインを手がけ大人気となりました。童話や童謡の挿絵など、子どものための仕事も多く手がけたよ。



『野遊』『三越』第15巻第10号 大正14(1925)年(個)

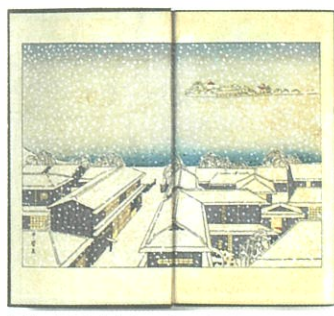
## TAKEHISA YUMEJI

大正イマジユリのデザインを知るキーワード2  
江戸時代への憧れ



竹久夢二『春の雨』(新小唄第2編) 大正5(1916)年(個)

日本の伝統との融合 江戸趣味  
明治以降に急速に広まった西洋文化への反動で、江戸時代以前の日本の伝統文化を再評価する動きが高まりました。美術の分野では、西洋式の印刷技術の普及の陰で伝統的な木版技術が衰退しつつあり、浮世絵への関心が高まります。橋口五葉や、小村雪岱、竹久夢二などのデザインには、日本の伝統意匠や江戸情緒を感じさせるモチーフが見られます。



小村雪岱『東京大観』(暁塚麗水著) 大正5(1916)年(個)

## WADA EISAKU 和田英作

[明治7(1874)年～昭和34(1959)年]  
現・垂水市生まれ



上) 帝国劇場開場記念絵はがき 明治44(1911)年(鹿)



下)『指鬘縁起』舞台背景 第三幕の下絵 大正12(1923)年頃(鹿)

和田が装飾に関わった帝国劇場は、日本初の西洋式劇場として明治44(1911)年に誕生したよ!「今日は帝劇、明日は三越」という宣伝文句が憧れの暮らしを象徴する言葉として流行しました。

大正イマジユリのデザインを知るキーワード3  
アール・デコや前衛美術からの影響

アール・デコや前衛美術からの影響  
1920年代になると、機械化や合理化が進んだ社会のなかで、量産に適したデザインが好まれるようになります。美術の分野でもキュビズムやシュルレアリスム、未来派など幾何学的な表現が登場します。ヨーロッパで1920～30年代に流行したアール・デコ様式は幾何学的・直線的なデザインが特徴です。1920年代初頭にヨーロッパ留学した杉浦非水も影響を受けました。




杉浦非水『モダン用語辞典』(喜多社一郎著) 昭和5(1930)年初版(個)

古賀春江『新美術講座洋画科』 昭和3(1928)年(個)